

## 忘却とは、忘れ去ることなり

卯年になって、一か月が過ぎた。2月は去るように早く過ぎるというが、今年も閏年ではないので28日までしかなく、財布の中身同様に、脱兎の如く去っていくのだろうか？

とはいえ、忘れてならないことは、あの1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災のことである。中学生以下の子どもには経験がなく、それ以上の大人の間にも風化現象が生じているのは残念であるが、改めて災害に備えておきたい。

災害を防ぐためには色々と工夫がされるが、その昔、防火の工夫の一つとして造られた

兎といえば、童謡“待ちぼうけ”がある。

- ♪待ちぼうけ、待ちぼうけ、ある日せっせと野良稼ぎ。そこに兎が飛んで出て、ころりころげた木のねっこ。
- ♪待ちぼうけ、待ちぼうけ、しめた、これから寝て待とうか。待てば獲物が駆けてくる、兎ぶつかれ、木のねっこ。・・・明日は明日はで森のそと、兎待ち待ち、木のねっこ。
- ♪待ちぼうけ、待ちぼうけ、もとは涼しい黍(きび)畑。いまは荒野の箒草、寒い北風、木のねっこ

元々は、中国・宗の農夫が、兎が偶然に田んぼの側の切り株にぶつかって死んだのに味をしめ、それ以後は野良仕事をやめ、ひたすら兎がぶつかるのを待っていたため、田を荒らしてしまったという話で、「守株」といえば、進歩がないとか、頑固で臨機応変に対応できないという意味であり、我々が教えられた“偶然を期待せずにコツコツと働け”という意味はなかったとか。

忘れてはならないことを忘れてしまうこともあり、もともとの意味・意義が変えられることもあるが、生活の各場面では、意識的に忘れさせられたり、意識を歪められることのないように、気をつけておかねばならないと考える今日この頃である。

のが、「卯建つ」（「祝」が本来の文字であるらしい）である。元々は梁（うつぱり）の上に立てる小さい柱のことをいったが、その後、切妻屋根の隣家との間について小さい防火壁で1階の屋根と2階の屋根の間に張り出すように設けられているものも「うだつ」と呼ぶようになる。うだつを上げるためには、金がかかることから、これを建築できる家は裕福で、それが出来ない家は「うだつが上らない」といわれるようになったといわれる。防災面だけでなく景観としても評価が高く徳島県美馬市の「脇町の町並み」が有名である。



今春は、統一地方選挙の年でもある。この4年間、彼等はどのように働いてくれたのだろうか？忘れてはならない重要なことの一つである。

兎の「相棒」の亀は、今回は「甲羅、面白かったなあ」と言ってくれるだろうか？

### 第36回 アイボリー・フォーラム

主催：豊中駅前まちづくり会社

#### バーチャルリアリティ(VR)を 継続的なまちづくりの架け橋にする

講師 / パナソニック電工株式会社  
長濱 龍一郎氏

日時：2011年2月15日(火) 午後6時半から

場所：ホテルアイボリー 参加費用：1,000円

※事前にお申し込みください 参加申し込み：\_\_\_\_\_

豊中駅前まちづくり会社 TEL: 06 - 6858 - 6190

### 豊中で楽しめる寄席

第10回  
記念

## アイボリー寄席

スペシャルゲストを迎えて開催します

林家 染丸  
笑福亭 由瓶  
桂 福丸

日時：2011年2月22日(火)

午後7:00開演

会場：ホテル・アイボリー

参加費：予約の方1,200円

(当日1,500円)

障行者・介護者500円

前売券はホテル・アイボリーでも販売しています。

三味線：豊田公美手

豊中駅前まちづくり会社

06 - 6858 - 6190